

70年前に宮城・仙台空襲があつた7月10日、親子リズム「おむすび」、ジュニアリズムの会員たちが広島で被爆した早坂博さんのお話を聞きました。

夜勤明けに被爆

仙台出身の私は、20歳のときに軍の命令で広島へ行き、防空壕をつくる仕事に就きました。昼と夜、交替で仕事をし、8月6日の朝はちょうど夜勤の仕事を終え、床にいたところでした。

眠りについたところ、突然外が真っ白に光り、爆風とともに布団ごと吹き飛ばされました。寝ていた部屋の窓側はガラスが割れ、壁も崩れました。幸運にも壁側にいたため助かりました。もし、

いま伝えたい

被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ

〈16〉 娘の死を無駄にしない

仙台市青葉区 早坂博さん(90)に聞く

反対側に寝ていたなら、命はなかったでしょう。

その真っ白な光と爆風は、原子爆弾でした。上空5000円で爆発、9000℃の火の玉となり爆風とともに放射能を放ちました。20〜30万人が一瞬にして亡くなりました。

私はこの世のものとは思えないむごたらしい光景と混乱の中、列車を乗り継ぎ、やっとの思いで仙台に戻りました。

体験を話したくても

広島、長崎の惨状をなんとか生き延びた人たちも、偏見に悩まされ、自分の過去を隠したり、普通に生きることができませんでした。

戦後、私は被爆者の会に加わり、同じ体験をし

た人たちとの交流と自分の体験を多くの人たちに語る活動を始めました。

話をさせてもらえる場所もみずから探しました。子どもたちにも聞いてほしい思いで学校に「被爆体験の話をしてほしい」と申し入れしても「教育委員会に相談してから」という返事で実現できていません。

戦争は失うものばかりで得るものは何もない、戦争の悲惨さを、若い人たちに、子どもたちに伝えたいのです。

私の長女はリンパ腺腫瘍のため41歳で亡くなりました。病気が分かったのは亡くなる3カ月前で、あつと言う間でした。私が被爆しているせいなのかは、はっきり分かりませんが、まったく無関係とは言えないでし

よう。

娘の死を無駄にしてはいけない。こんなつらい思いをするのは私たちの代で最後にしなければと、妻とも話しています。

まだまだやることはある

安倍政権は「安全保障関連法案」などと言葉のごまかしで、戦争をしようとしている。とんでもないことです。だけど「これはおかしい!」と気づき、勉強し行動に移している人たちがいる。とても頼もしく思います。私はもう年を取りましたが、まだまだやることがあるような気がしてなりません。

今の政治を止めるためにあきらめず、ねばり強く、手をつないで、力を合わせていきましょう。

【お話を聞いて】

「学校で話をさせてもらえないなんて、仙台の学校ではどんな平和教育をしているのか疑問に思う」「4歳の娘は、少しずつ話分かるようになってきているのでどうやって伝えたらいいか…。自分が知らないことには伝えられないので、話が聞ける場所には意識して参加しようと思う」と感想が出されました。



早坂さんを囲んで。パンピ班の先輩たちがすいとんをつくってくれた